

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22005

学校名：札幌市立屯田小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	握力・立ち幅跳び・ソフトボール投げ →「全国平均より上回っている」 長座体前屈・反復横跳び・上体起こし →「全国平均より下回っている」 50m走・20mシャトルラン →「全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている」	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間にほとんど運動をしていない児童が多い。特に女子に運動が好きではないという回答が多い。そのため、運動に親しむ機会が少なく、運動能力が低下傾向にある。 ・運動時に教えあうことが好きな児童の割合が全国平均より多い。体育の授業でお互い協力し合う学習方法を取り入れていることが理由の一つであると考えられる。 ・授業で楽しく体を動かしている児童は多いものの、授業以外の取り組みにはあまりつながない。
体力・運動能力 <女子>	握力・上体起こし・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ →「全国平均より上回っている」 50m走 →「全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている」 長座体前屈・20mシャトルラン →「全国平均より下回っている」	
運動・スポーツへの意識 運動習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業以外で1週間の総運動時間が420分を越える子が少なく、60分未満の児童が男女ともに多い。また、スマホ等の画面を見る時間が長い児童が多い。 ・「運動が嫌い(やや嫌い)」と回答した児童の割合が全国平均より高い。 	

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

○課題探究的な学習の推進

- ・授業において、目標を立てることとICT等を活用して自らの動きを振り返ることのサイクルを重視し、課題探究的な学習を目指す。

○多様な運動経験を生み出す授業

- ・運動習慣調査の結果から、本校の児童は男女ともに色々な種目を体験したときに運動が楽しいと感じる傾向が強いため、多様な運動経験を促す授業づくりを行う。

○新体力テストの取組

- ・3年生以下が3種目、4年生以上が8種目に取り組み、目標をもって運動に取り組めるようにする。

○運動機会の充実を図る環境整備

- ・大縄を各学級に配付するなど、体を使って遊ぶ場を確保し、運動機会を創出する。
- ・遠足や学習発表会など学校行事においても運動機会を創出する。

○自治的な活動や異学年交流の充実

- ・遠足では、ブロックごとに上の学年が交流遊びの企画運営を行う。
- ・休み時間は異学年交流の際に様々な遊びを行い、体を動かすことの楽しさを感じ、全学年が遊びの企画を担当できるように分担をする。

○健康づくりに関する横断的な指導

- ・保健指導を通して生活リズムを整えることの重要性や成長に合わせた体と心の変化を知り、自身の健康をよりよくしていく態度を育てる。
- ・食指導を通して栄養のバランスを考えた食事の重要性を学ぶ。給食や普段の食事を進んで摂取し、楽しめる気持ちを育てる。
- ・外部講師を活用し、性指導や薬物乱用防止等、子どもが自らの健康について考える場を創出する。
- ・委員会活動の取組で、子どもたちが健康に関する内容を考え、健康保持の大切さを全校に広める活動の推進を図る。

家庭・地域との連携・協働

- ・保護者アンケートによる「健やかな体の育成」に関わる集計結果を活用し、家庭と連携できることを発信していく。
- ・プロスポーツ選手(過年度はレバンガ北海道・エスポラーダ北海道・タグラグビー出前授業)をゲストティーチャーとして招く。